

令和3年度

鹿児島大学農学部特別入試（学校推薦型選抜Ⅰ）入学試験問題

学 科	食料生命科学科
試 験 科 目	小 論 文

試験日時 令和2年11月17日(火)
9時00分～11時00分

(注意事項)

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は表紙と白紙を含む計4枚で綴じられています。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
3. 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

令和3年度 鹿児島大学農学部特別入試（学校推薦型選抜Ⅰ）

小論文問題 食料生命科学科

以下の3課題について2課題を選択し、解答用紙（400字詰め原稿用紙）の課題番号欄に選択した課題番号を記入し、字数指定に従って記述しなさい。

課題1

米黒酢（黒酢）や焼酎は、1980年代まで生産地域で主に消費されていたが、血圧調節作用や血栓溶解活性など健康機能性が明らかになったことや、その風味や製造法のユニークさがマスコミに取り上げられたことで全国的に知られるようになり、需要が拡大した代表的な伝統的食品である。

それでは、あなたが住んでいる地域において主に消費されている伝統的な食品を例にあげて、その需要拡大にはどのような手段があるか、あなたの考えを600字以内で書きなさい。

課題2

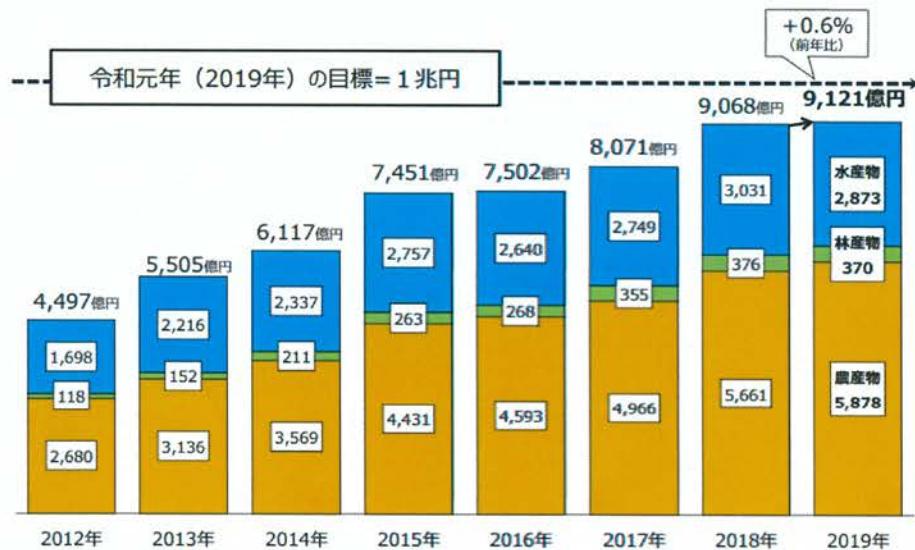
有機塩素化合物、重金属、油類などによる土壤や地下水の汚染は大きな環境問題となっている。その原因として、これらの物質が不適切に取り扱われたり、保管・処理されたりすることがあげられる。また、使用された当時は危険性が分かっておらず環境中に放出され、後になつて問題が明るみになることもある。

このような環境汚染の問題を解決するためにどのような方法が考えられるか、あなたの考えを600字以内で書きなさい。

課題3

日本政府は、農業における国際的な競争力強化の具体的な戦略として、日本産の農林水産物・食品の輸出額を令和元年（2019年）までに1兆円にすることを目標として掲げ、取り組みを進めてきた。その結果、図¹に示すとおり目標は達成できなかったものの、2012年には4,497億円だった輸出額が、2019年には9,121億円まで増加した。将来的には、2030年までに輸出額を5兆円以上（中間目標として2025年までに2兆円以上）とすることが目標として掲げられている。

この目標を達成するために、我が国の農林水産業および食品産業で、どのような問題を解決すればよいか、あなたの考えを600字以内で書きなさい。



図¹ 農林水産物・食品輸出額の推移（令和元年確定値）

*1：農林水産省食料産業局、農林水産物・食品の輸出に関する統計情報

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/e_info/zisseki.html (閲覧日：2020年11月10日)